

化学・繊維

1. 評価対象企業（20社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、日産化学（新規）、東ソー、信越化学工業、エア・ウォーター、大陽日酸、カネカ、三井化学、JSR、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、日立化成、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	6	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	12
計		20	100

（注）評価項目の内容および配点は30頁参照

(2) 評価実施アナリストは24名（所属先20社）である。（31頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（29頁）参照）

- ① 本年度は、各評価分野において、内容変更、配点変更または項目の削除を行い、評価を実施した。また、新規の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は70.1点（昨年度73.5点）、総合評価点の標準偏差は9.3点（昨年度8.8点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度74%）、**説明会等**が71%（昨年度74%）、**フェア・ディスクロージャー**が67%（昨年度82%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が69%（昨年度同率）、**自主的な情報開示**が65%（昨年度同率）となり、15ポイント低下した**フェア・ディスクロージャー**を除き、他の4分野は昨年度とほぼ同水準となった。
- ③ 評価項目について見ると、昨年度は平均得点率80%以上の項目が5項目あったが、本年度はなく、同75%以上の項目が次の3項目であった。
 - (a) 「フェア・ディスクロージャー・ルール」の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率79%〔昨年度76%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：90%台4社・80%台6社）
 - (b) 「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか」（平均得点率76%〔昨年度75%〕）（得点率：90%2社・80%台6社）
 - (c) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）」

に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」(平均得点率 75% [昨年度 82%]) (得点率：80% 3社)

- ④ 一方、昨年度は平均得点率が 65%以下の項目が 2 項目であったが、本年度は次のとおり 3 項目(内 1 項目は昨年度比-20 ポイント)であった。なお、(d)に関連し、決算説明電話会議のリプレイ等への質疑応答部分の追加を望む声があった。

(d) 「説明会または電話会議のリプレイ(質疑応答、議事録を含む)は速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか」(平均得点率 48% [昨年度 68%]) (得点率：0%2社・30%台 9社)

(e) 「工場見学、事業部説明会、技術説明会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容は充実していますか」(平均得点率 63% [昨年度 61%]) (得点率：30%台 1社・50%台 8社)

(f) 「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 64% [昨年度 65%]) (得点率：40%台 3社・50%台 6社)

- ⑤ なお、事業買収の成否を判断する上で必要なシナジー効果など定量情報の開示を望む声があった。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井化学(ディスクロージャー優良企業 [4 回連続 4 回目]、総合評価点 85.4 点 [昨年度比-4.4 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 91%)が第 1 位、説明会(84%)、コーポレート・ガバナンス関連(85%)、自主的情報開示(83%)が第 2 位、フェア・ディスクロージャー(76%)が同得点第 3 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営概況説明会等で CEO および CFO が自らの言葉でプレゼンや質疑応答を行っており、将来的な方向性がしっかり示され、今後の経営方針等について有意義なディスカッションができることが評価されたほか、「IR の重要性の認識、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等」も含め、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。また、「IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積され、IR 担当者とは有益なディスカッションができること」も高く評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」、「非財務情報(ESG 情報等)の開示に積極的に取り組んでいること」も高く評価されたことに加え、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における説明が十分であること」が高く評価されたほか、「インタビューにおける補足説明が十分であること」が最も高い評価となった。また、「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」も評価された。さらに、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」も評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示(メディア対応を含む)に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っている」取組姿勢が評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE 等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」も評価された。さらに、評価対象企業全体として他の項目より得点率が低水準となった、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」については、平均得点率を 16 ポイント上回る評価となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、評価対象企業全体として他の項目より得点率が低水準となった、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実している」ことについては、平均得点率を 21 ポイント上回り、最も高い評価となった。これに関して、国内外の工場見学や事業説明会など積極的に取り組む姿勢を評価する声が多く寄せられた。また、「ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書、統合報告書等

の内容が充実していること」も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 住友化学（総合評価点 84.1点〔昨年度比-3.8点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位（86%）、経営陣のIR姿勢等（86%）、フェア・ディスクロージャー（84%）が第2位、コーポレート・ガバナンス関連が第3位（84%）、説明会等が同得点第3位（81%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、経営概況説明会等でCEOおよびCFOが自らの言葉でプレゼンや質疑応答を行っていることが評価されたほか、「IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等」も含め、「経営陣のIR姿勢」が高い評価となった。また、「IR部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積され、IR担当者と有益なディスカッションができること」も評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が高い評価となったことに加え、「非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価を受けたほか、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」も評価された。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおける補足説明が十分であること」が高く評価された。また、「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が入手できること」も評価された。さらに、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」も評価された。なお、IFRS採用後の非経常項目等の開示充実に期待するとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「説明会または電話会議のリプレイ（質疑応答、議事録を含む）が速やかに電話やウェブキャストで視聴等できること」が満点となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が高く評価された。また、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」が最も高い評価を受けたことに加え、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」も高く評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していたこと」については、平均得点率を17ポイント上回る結果となり、その理由として、国内外の工場見学や事業説明会など積極的に取り組む姿勢を評価する声が多く寄せられた。また、「ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書、統合報告書等の内容が充実していること」は、第2位以下に大差をつけ、満点に近い評価となった。さらに、「開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していること」も最も高く評価された。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。

第3位 日産化学（総合評価点 81.6点）

- ① 同社は、説明会等（88%）、コーポレート・ガバナンス関連（90%）が第1位、経営陣のIR姿勢等が第3位（84%）、フェア・ディスクロージャーが第9位（73%）、自主的情報開示が同得点第16位（56%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、副社長CFOが「説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていること」が評価されたほか、「IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等」も含め、「経営陣のIR姿勢」が高い評価を受けた。また、「IR部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積され、IR担当者と有益なディスカッションができること」が最も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も最も高い評価を受けたほか、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」も評価された。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における説明が十分であること」、「インタビューにおける補足説明が十分であること」が共に最も高く評価された。また、「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補

足資料が入手できること」、「説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていること」も共に最も高く評価された。さらに、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」は高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位の評価を受けた。

- ④ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された。また、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」が共に最も高く評価された。さらに、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」については、高水準の総還元性向の維持向上を目指す姿勢が評価され、平均得点率を28ポイント上回り、第2位以下に大差をつけた。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していたこと」の評価は平均得点率を9ポイント下回った。今後、当該評価項目の改善を望む声があった。

以 上

2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目6 (配点33点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目5 (配点32点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目4 (配点13点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3 (配点12点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	85.4	29.9	1	26.8	2	7.6	3	11.1	2	10.0	2	1
2	4005 住友化学	84.1	28.5	2	26.0	3	8.4	2	10.9	3	10.3	1	2
3	4021 日産化学	81.6	27.8	3	28.1	1	7.3	9	11.7	1	6.7	16	未実施
4	3407 旭化成	80.2	26.2	7	25.6	5	8.5	1	10.8	4	9.1	4	4
5	4204 積水化学工業	78.3	26.7	5	25.4	6	7.6	3	10.5	5	8.1	7	7
6	4004 昭和電工	77.9	27.3	4	26.0	3	7.6	3	9.2	10	7.8	9	3
7	4208 宇部興産	77.2	26.4	6	25.0	7	7.4	6	9.8	7	8.6	5	6
8	4188 三菱ケミカルホールディングス	75.7	26.2	7	22.7	9	7.4	6	10.2	6	9.2	3	5
9	4185 JSR	70.9	24.2	9	23.6	8	6.2	11	9.7	8	7.2	14	8
10	3401 帝人	70.3	23.3	10	22.4	10	7.4	6	9.4	9	7.8	9	9
11	4042 東ソー	66.7	22.8	12	22.3	11	6.1	13	7.2	18	8.3	6	10
12	4091 大陽日酸	66.1	23.1	11	22.2	12	6.0	14	8.2	14	6.6	18	12
13	4202 ダイセル	65.1	22.6	14	21.1	13	6.0	14	8.7	11	6.7	16	14
14	3402 東レ	63.4	21.6	15	20.3	16	5.9	16	8.1	15	7.5	12	13
15	4063 信越化学工業	62.8	22.7	13	20.7	14	6.2	11	5.6	20	7.6	11	15
16	4088 エア・ウォーター	62.1	20.4	17	20.7	14	6.3	10	7.3	17	7.4	13	18
17	4217 日立化成	60.4	20.8	16	19.6	17	4.7	20	8.5	12	6.8	15	11
18	3405 クレレ	57.6	18.9	20	18.2	19	5.8	17	8.3	13	6.4	19	16
19	4118 カネカ	57.5	19.6	19	17.8	20	5.8	17	6.3	19	8.0	8	17
20	4612 日本ペイントホールディングス	57.4	20.1	18	18.8	18	5.1	19	7.7	16	5.7	20	19
	評価対象企業評価平均点	70.09	23.98		22.67		6.67		8.97		7.80		

2019年度 評価項目および配点(化学・繊維)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (33点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。(IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	8
②経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	8
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	3
②非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	3
③会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (32点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	8
(2)説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
①決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、T Dnet経由またはウェブサイトで見られますか。	5
②説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	8
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示(メディア対応も含む)に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	7
(2)説明会または電話会議のリプレイ	
・説明会または電話会議のリプレイ(質疑応答、議事録を含む)は、速やかに電話やウェブキャストで視聴ができますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (13点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	2
(2)目標とする経営指標等	
①重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	3
②中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	3
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (12点)	配点
①工場見学、事業部説明会、技術説明会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容は充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	7
②ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書、統合報告書等の内容は充実していますか。	3
③開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。	2

化学・繊維専門部会委員

部会長	竹内 忍	SMBC 日興証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村証券
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

評価実施アナリスト（24名）

板倉 充知	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
伊藤 健悟	QUICK	中原 周一	東海東京調査センター
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	西平 孝	岡三証券
大藤 修義	アセットマネジメント One	根本 隼	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
岡寄 茂樹	野村証券	野口 英彦	アセットマネジメント One
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	福島 大輔	野村証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント	宮本 剛	UBS 証券
澤砥 正美	SBI 証券	山田 幹也	みずほ証券
高橋 豊	極東証券経済研究所	吉田 篤	みずほ証券
竹内 忍	SMBC 日興証券	渡辺 勇仁	大和証券投資信託委託
田中 彰	三菱 UFJ 信託銀行	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。